

「石川啄木没後百年」に思う。

平成22年度から3年計画で始まった啄木記念事業の数々。初年度は、歌集「一握の砂発刊100年企画」、2年度は「石川啄木百回忌」と続きました。そして今年、啄木の命日となる4月13日から「石川啄木没後百年記念事業」がスタート。この節目をどう考えるのか、関係者の皆さんにお話を伺いました。



「石川啄木没後百年」の活動について

菅原／百年企画が続く中、一昨年と決定的に違うのは、東日本大震災が起こってしまったこと。それを抜きには語れないことがあります。時代は違っても、困難な状況を必死に生き抜いた啄木の姿は震災に重ね合わせて考えられるはず。一つひとつの言葉が、多くの人にとって励ましや慰めになるのではないのでしょうか。

山本／今年度もいろいろな事業を予定していますが、4月13日から石川啄木記念館で企画展「啄木からのメッセージ」今日を見つめて」を開催しています。また没後百年を機に発行されたのが「新啄木かるた」。全国公募から100首を選んでカルタを制作し、盛岡市内の小中学校に配布しました。

菅原／6月の啄木祭記念フォーラムでは建築家の安藤忠雄氏による講演を行ったり、7月には啄木終焉の地・東京都文京区で作家の渡辺淳一氏を講師に「文の京講座」を行うなど、さまざまな視点から企画を展開していきます。

竹田／商工会議所玉山地域運営協議会女

性部では、毎年恒例行事として、記念館内の洪民尋常小学校舎の障子の張り替えや補強・清掃活動を続けています。かつて啄木が教鞭をとった場所は私たちの宝物、大切に残していきたいですから。

山本／清掃活動は26年間も続いているんですよ。女性ならではの細やかさと気遣いで丁寧に取り組んでいます。

竹田／作業中に来館された方々と啄木について会話を交わせるのも楽しくて、この行事は一番



記念館内洪民尋常小学校舎の障子張り替え活動をする、商工会議所玉山地域運営協議会女性部のみなさん。

参加が多いんですよ。地元宝物を守る活動に参加できることに感謝しています。それから、女性部では今年の没後百年を盛りあげる事業として「啄木歌碑めぐり」も企画しています。人気のウォーキングを楽しみながら、玉山地区を巡り歩きじっくりと歌碑を詠んで啄木を身近に感じてもらいたいです。

今受け止める、啄木からのメッセージは？

山本／啄木は身近な生活の中にある出来事やモノを題材に、歌や小説をつくっています。それによって、文学を庶民の生活に近づけたことは啄木の偉業。今回、記念館で行っている企画展は、文学を身

近に感じることで、私たちの心が豊かになればと思いつながり立てた企画の一つ。派手ではなくても、何か心の奥に深く語りかけて役に立つことを啄木自身が望んでいるのではないかと思います。メッセージには被災された方々に届けたい言葉も多いですが、現代の日常生活でも皆たくさんの問題を抱えていて閉塞感があります。100年前の時代に啄木が言ったことを参考に、新しい時代をどう築いていくか。そんなことを踏まえながら事業の進め方を考えています。

菅原／環境問題や自然破壊に関する提言を、啄木は今から一世紀も前に語っているんですね。環境保全や自然との共生、これは今に通じる我々自身の課題でもある。そのほか、教育論や文学論、今回の特別展ではいろんな角度から啄木を見つめています。こうしてみると啄木は一貫した考え方を持っている。そしてそれは普遍的で、幅の広さや興行の深さがあります。例えば、英雄論についても…。

山本／ええ。英雄というのは、豊臣秀吉や楠木正成など、何かこの世に事を起こした人に限らず、「悲喜哀楽を味わい尽



竹田かつ子さん／盛岡商工会議所玉山区
域運営協議会女性部 部長



菅原壽さん／財石川啄木記念館 館長

くした人が英雄である」と啄木は言っています。生きている間に、精いっぱい悲しみや喜び、楽しみを十分に味わった人こそが英雄である。日々辛いことがあっても健やかに元気に暮らすことが幸せだと。

菅原／庶民の考え方を大事にしている。花ならば、大根や馬鈴薯の花を好んで詠んだり。目立たないけれど身近にある美しさをとらえていますね。

竹田／先程の歌碑めぐりで言えば、啄木歌碑第一号は、没後わずか10年で地元有志によって建てられています。金田一京助さんなど著名な文学人も歌碑建立に携わっています。碑には「無名青年の徒、これ而建つ」となっています。その奥ゆかしさがいいたすね。啄木の考え方を踏まえると、いろいろ理由があつて故郷を離れた啄木が、村人たちに温かく迎えられることは啄木にとって何よりうれしいことだったので。そんな風に考えると感慨深いですね。

山本／歌碑建立時の金田一さんの祝辞に「在天の霊よ（啄木よ）、この不磨（永遠

の）贈り物を受けたまえ。そして君がここに英霊を葬るのだ」という言葉があります。啄木の魂は第一号歌碑にある。地元住民にとっても特別な思いがある歌碑ですよ。

竹田／一つひとつの歌碑から受けるメッセージは大きいです。周りの変わらぬ風景も楽しめますから、ぜひ皆さんも巡ってほしいです。

没後100年企画をどう活かすか

山本／啄木は歌人として知られている一方、スキャンダラスな話が浮き彫りとなつてしまいがち。そのため、啄木が本当に発したメッセージを、私たちは見逃してきたのではないかと思うんです。ですから没後100年を機に、改めて啄木の声に耳を傾けていただきたいと思います。私たちも一時のブームに乗って誇張することなく、本当の啄木を伝えたいと思います。

竹田／でも、この百年企画をいい意味でチャンスとして利用したいものです。商売をする立場としても、もっと沢山の人が洪民を訪れるきっかけにしたい。いつ



洪民公園にある第一号歌碑。

か行きたいと考える啄木ファンを具体的に呼ぶためには何かきっかけも必要。文学者だけではなく、広くいろんな人に啄木の素晴らしさを伝え、洪民の豊かな自然の価値を知ってもらいたいです。

菅原／26年2カ月という短い生涯を終えた若者が、その後100年愛されてきたわけだから、次の100年に繋げなくてはならない。私たちにはその礎をつくる使命もあるから、確かに今のチャンスを活かしたい。

山本／そうですね。文学者や研究者だけでなく、ビジネス、農業、子どもの教育などいろんな視点で、いろんな世代が啄木を語る時代になればいいですね。

菅原／記念事業の一つとして、震災で流出した陸前高田市の記念碑建立に向けて動いているところです。皆で声を掛け合つてがんばりましょう。



山本玲子さん／財石川啄木記念館学芸員